

## 5 地域人材活用

本校では、地域の方の専門的な知識を生かし、学習活動のサポーターとして協力していただいている。サポートしていただいているのは主に次の3つである。

### (1) 理科や生活科でのサイエンスサポーター

担任が実施する理科授業に、専門的な視点から支援してもらうことにより、授業の一層の充実を図ることを目的として、サイエンスサポーターを導入している。サイエンスサポーターには、専門的知識をもった地域の退職教員8名にご協力いただいている。支援内容は、観察・実験の補助等である。

5年「花のつくりと実や種子」の学習では、顕微鏡の操作補助をしていただき、児童全員が45分間で数種類の花粉を観察することができた。

4年「電池のはたらき」3年「風やゴムのはたらき」の学習では、おもちゃ作りの補助をしていただいた。児童一人一人がおもちゃ（自動車、メリーゴーランドなど）の設計図をかき、材料も自分で集めた。担任一人で、児童全員のおもちゃ作りの支援にあたる場合、出来上がらない児童がいることも考えられたが、5名のサイエンスサポーターに補助していただくことで、全員が45分間で仕上げることができた。

1、2年の生活科の学習では、地域にある「日の岡山」に秋の自然を探しに出かけた際に、ゲストティーチャーとしてサイエンスサポーターに解説をしていただいた。

#### 【児童の感想】

今日ぼくは日の岡山探検に行きました。「むべ」とか「柿」とか秋の食べ物が分かりました。〇〇先生ありがとうございました。道の途中で、〇〇先生が芋と似ている食べ物を取ってくださったので食べましたが、ぼくにとってはちょっと苦手な味がしました。

ぼくは、「むべ」が芋みたいな形をしていたから、最初何でこんな所に芋があるんだろうとびっくりしました。でも、〇〇先生から「むべ」のことを教えてもらって、芋じゃないことが分かりました。「むべ」という名前にもびっくりしました。

秋はちくちくするものがいっぱい、草がいっぱいでした。わたしは、食べ物の名前はただつけただけだと思っていましたが、〇〇先生が話してくださったので、食べ物の名前はよく考えてあるのが分かりました。



「電池のはたらき」の学習で  
おもちゃ作りを支援



秋の生き物（自然）について解説を  
行っているサイエンスサポーター

### (2) 稲作アドバイザー

本校には、体験学習田があり、米作りに取り組んでいる。田植えや稲刈りは全校児童で行い、それ以外の管理は5年生を中心に行っている。米作りに必要な様々な活動のアドバイスを稲作アドバイザー4名をお願いしている。

もみまき時には、もみを水につけて水に浮くもみは



稲刈りの様子

